

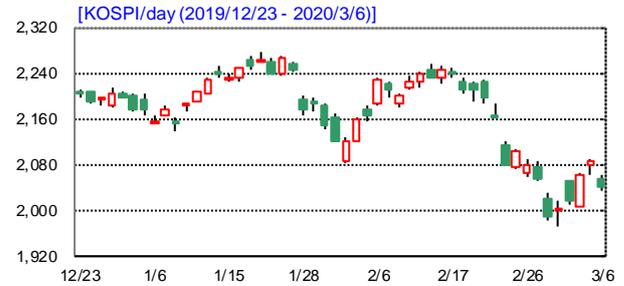


【韓国】 総合指数は週間で2.7%高と3週ぶり反発、今週は神経質な展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で2.7%高と3週間ぶりに反発。前半は世界各国の中央銀行が、新型コロナウイルスによる景気下振れリスクに対処し、金融緩和で協調するとの期待が相場を支えた。米FRBが3日に発表した緊急利下げがポジティブサプライズと受け止められ、外国人を中心に買いが膨らんだ。米金利低下に伴うドル安を背景に、投資資金が韓国を含む新興国市場に流入すると観測も浮上。韓国政府が4日発表した補正予算案も好感された。指数は週明け2日から4連騰となり、5日終値は2月25日以来の高値水準だった。ただ、6日は反落。新型コロナウイルスの感染が米国など世界各地に広がり、投資家心理を冷やした。今週は神経質な展開か。感染拡大が続けば売り込まれるが、収束の兆しが出れば大幅反発もあり得る。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は週間で3.2%安と3週続落、今週も原油安が重しか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.2%安と3週続落。OPEC プラスの減産協議決裂を受けた原油安やルーブル安で週後半に崩れた。FRBが0.5%の緊急利下げを実施したことでドル安・ルーブル高が進み、指数は4日に大きく上昇したが、OPEC プラスで減産協議が決裂し、原油相場が大幅に下落。ルーブルの反落も響いた。ブレント原油は1バレル45.27ドルと週間で10.4%下落し、為替市場ではルーブルが対ドルで2.8%安。RTS 指数は3日に前日比で4.2%上昇した後に3日続落。6日は前日比5.0%安の1257.96ドルで引け、2019年8月19日以来の安値で週の取引を終えた。個別ではエネルギーのスルグトネフテガスとガスプロムが7%超下落し、金融のズベルバンク・オブ・ロシアが5.7%下落した。今週も原油安が重しとなるか。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.0%高と4週ぶりに反発、今週は神経質な展開か

開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.0%高と4週ぶりに反発。主要国の金融緩和姿勢が支援となったが、エネルギー株の下落で伸び悩んだ。前週まで3週続落し、押し目買いの機運が高まる中、米国など主要国の金融緩和が好感された。ただ、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を背景に景気悪化への警戒感が続いた上、原油安を受けたエネルギー株の下落が重しとなり、反発は限定的。VN 指数は週明けから続伸したものの、その後はもみ合った。個別では食品加工のマサン・グループが11.0%高、ベトナム航空が8.5%高と急伸し、金融のベトナム投資開発銀行が3.0%高、ベトナムバンクが2.5%高となった一方、エネルギーのベトナム石油総公社が3.7%安で指数の重しとなった。今週は新型コロナウイルスの感染拡大をにらみ神経質な展開か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.8%高、週末の下落で上げ幅縮小

ジャカルタ総合指数は週間で 0.8%高と反発。荒い値動きが続いた。週初の 2 日は国内で初めて新型コロナウイルスの感染者が確認された影響で売られ、指数は終値で前営業日比 1.7%安と 7 日続落。一方、3 日は政府が追加の景気刺激策を検討中と報じられた効果で前日比 2.9%高と急反発すると、4 日は米 FRB の緊急利下げ決定を受けて、財務相がインドネシアへの資金流入増加に対する期待感を示したことが買い材料となり、さらに 2.4%上昇した。ただ、5 日に反落すると、6 日は前日の NY ダウが大幅下落した流れで売られ、前日比 2.5%安と続落している。今週は 10 日に 1 月の小売売上高が発表される予定。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 1.7%安、週末に 3 年 2 カ月ぶりの安値更新

ストレーツタイムズ指数は週間で 1.7%安と 3 週続落。週末の下落が響いた。週初の 2 日は、中国の 2 月の公式製造業 PMI と財新製造業 PMI が前月の水準を大幅に下回った影響で指数は 4 営業日続落。一方、3 日に反発すると、4 日は前日の取引終了後に発表された 2 月の製造業 PMI が 48.7 と 3 カ月ぶりに節目の 50 ポイントを割り込んだものの影響は軽微で続伸した。ただ、週後半は軟調で 5 日の反落に続き、6 日は景気が後退入りするとの懸念が広がった影響で売られ、指数は終値で前日比 1.9%安。17 年 1 月以来の安値を更新して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.8%高、原油価格上昇でエネルギー株に買い

SET 指数は週間で 1.8%高と 4 週ぶりに反発。週末の反落を除き、おおむね堅調に推移した。2 日は続落したものの、3 日は前日の NY 原油先物が反発した効果でエネルギー株が指数上昇をけん引し、前日比 2.9%高と反発。4 日は財務相が 32 億米ドル相当の景気刺激策を実施する意向を示したことで買われると、5 日は 2 月の CPI が低い伸びにとどまり、追加利下げに対する期待感の高まりから 3 日続伸した。ただ、6 日は景気減速に対する警戒感を背景に金融株の一角が売られ、指数は終値で前日比 1.9%安と反落している。今週は政府による新型コロナウイルス対策が進展すれば株式相場の追い風になるか。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.03%高、中央銀行が 2 会合連続の利下げを決定

クアラルンプール総合指数は週間で 0.03%高と横ばい。週末の反落が上げ幅を縮めた。週初の 2 日はムヒディン新首相誕生に伴う政局の不透明感から売られ、前営業日比 1.1%安と続落。一方、3 日は中央銀行が政策金利を 2 会合連続で引き下げ、約 10 年ぶりの低水準となる 2.5%に設定した効果で反発し、4 日は 1 月の輸出額が前年同月比 1.5%減と市場予想からやや上振れしたことで続伸した。5 日も小幅に上昇したが、6 日はドル高リング安が進んだ影響で売られ、4 日ぶりに反落した。今週は 13 日に 1 月の鉱工業生産が発表される予定。外部要因では 12 日の欧州中央銀行 (ECB) 理事会の内容が意識されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。